洋上アルプス No.226

平成26年1月7日
林野庁屋久島森林生態系保全センター発行
鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

年頭所感

太鼓岩より宮之浦岳(1936m)を望む

遺産地域の保全と森林の公益的機能発揮～屋久島の森林を更なる高みへ

屋久島森林管理署
署長　米田（よねだ）　雅人（まさと）

平成26年の新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は皆さまから屋久島森林管理署に対して格別のご支援・ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年は屋久島世界自然遺産登録20周年であり、記念行事として当署でも屋久島森林生態系保全センターなど多くの皆さまと協力して無名杉の名前募集、ヤクタネゴヨウの記念植樹、自然休養林のボランティア整備などを実施し、改めて20年を振り返り現状を確認するとともに将来を展望できたと考えています。

また、国有林野事業についても、平成25年4月よりこれまでの特別会計から一般会計での実施に変わる節目の年となり、国有林と民有林がより一層一体的な整備・保全を図りながら、森林の有する公益的機能を発揮していくこととしています。

新たな年においても「20周年」を経て、昨年までの取り組みをさらに継続・発展させるべく、縄文杉周辺の再整備など遺産地域の保全に係る取り組み、国有林での有害鳥獣捕獲などヤクシカ被害対策をはじめ、森林吸収源対策や地元振興などの観点から路網の整備や間伐実施、「地杉」や土埋木の有効活用、防災機能を高める治山事業などに関係機関等と連携して取り組んで参ります。

今年も屋久島町並びに屋久島町民の皆さまにとって素晴らしい年となりますようご祈念申し上げまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

森林生態系の保全に向けて

屋久島森林生態系保全センター
所長　前田（まえだ）　三文（みふみ）

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に国有林野事業の一般会計化に伴う組織再編により、屋久島森林生態系保全センターは全国7つの保全センターのひとつとして業務をスタートさせました。

当センターは森林生態系の適切な保全や野生鳥獣被害対策などを主な業務としており、実施に当たっては関係機関はもとより地域の皆さまと連携・協働して取り組んでいきたいと考えています。

昨年は屋久島が世界自然遺産登録20周年を迎えた節目の年でもあり、当センターでは関係機関と連携して、親子森林教室や無名杉の名前募集、ヤクタネゴヨウの記念植樹、国有林と世界遺産の関わりを紹介するパネル展などを開催し、世界自然遺産屋久島の魅力と特徴を振り返る記念行事に取り組んできました。これらの取り組みを通じて地域の皆さまに当センターの業務の一端を紹介できたのではないかと考えています。

屋久島には多くの研究者が来島し調査研究が行われています。屋久島の豊かな森林生態系を保全するためにどのような調査研究が行われているのか、本年も当センターの取り組みも含め各種調査研究の概要をこの紙面で紹介し、地域の皆さまと情報を共有し、連携・協働した取り組みにつなげていきたいと考えています。

本年も皆さまにとって素晴らしい年となることをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

愛称樹名板を設置

屋久島森林生態系保全センターでは、屋久島世界自然遺産登録20周年を記念し、10月26日に無名ヤクスギの愛称命名式を行いました。

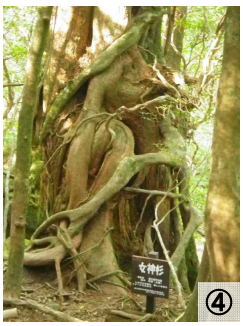
このほど、「白谷雲水峡」自然休養林内の4カ所に、完成した樹名板を設置しました（写真参照）。

愛称からうかがえる樹木の様子と情景を思い浮かべ、他の樹木や森林にも親しみを深めていただければと思います。

①シカの宿　②武家杉・公家杉
③かみなりおんじ　④女神杉

①

②



④

③

屋久島生態系モニタリング

屋久島西部の植生垂直分布調査(平成22年度)

●標高400㍍プロット

シアンヌタ谷中流左岸支流沿いの広葉樹二次林(天然生林)。胸高直径が1㍍を超えるような大径木はなく、最も太いものでもヤクシマオナガカエデの50㌢程度のものが僅かに見られる程度。局所地形は支流沿いの凹型斜面で、平均傾斜は34°、プロットを縦断して流れる沢の流下方位が北北東、標高は435～445㍍範囲。

[高木層]ホソバタブが多く、ヤクシマオナガカエデ・ヒメシャラ・エゴノキ・バリバリノキが混生。個体数は少ないがカクレミノ・カラスザンショウ・アカシデ・リュウキュウマメガキも出現。**[亜高木層]**ほとんどがホソバタブ・ヒサカキ・サクラツツジだが、バリバリノキ・サザンカ・イヌガシ・ヒサカキが混生。個体数は少ないがヒメシャラ・シマサルスベリ・モクレイシ・ミミズバイも生育。サクラツツジの一部には被圧により衰退している個体や立ち枯れ木も確認。**[低木層]**サカキ・サザンカ・ホソバタブが生育しタイミンタチバナ・ヒメシャラ・イヌガシ・ヒサカキ・ツゲモチ・ヤブニッケイも出現。いずれも個体数は少ない。**[草本層]**歩道以外の地表は90%程度が礫で覆われ出現個体数は少ない。礫の隙間には、カツモウイノデ・ヤクカナワラビ・ヘラシダ・ホウビシダなどのシダ植物、マンリョウ・ヤクシマアジサイ・アリドオシ・ヒメシャラ・サカキ・サザンカ・ミミズバイ・ヒメイタビ・サンショウソウなどが生育。

[特徴]ホソバタブ－カツモウイノデ群集。特徴的な樹種として標高600m以上に多く出現するヒメシャラやアカシデの高木が出現する一方、低地性のヤクシマオナガカエデやカクレミノが混生。

[5年前との比較]高木層の変化は少ない。亜高木層のホソバタブの生育が良好で、リュウキュウマメガキが被圧により枯死。ヤクシカの食害影響で、低木・草本層が5年前から少なくなりつつあり、また不嗜好種が目立ってきた。

屋久島の植物

カラタチバナ
（ヤブコウジ科）

本州以南に分布する常緑小低木。屋久島では切株や岩に着生していることが多い。マンリョウに似るが、樹高は低く20～40㌢、葉は細長く、長さ10～15㌢の披針形。花や実の数はマンリョウ（万両）より少なく、百両ともいわれる。

花期は7月、果期は冬。

大分舞鶴高校体験学習生を受入

平成25年12月14日、大分県立大分舞鶴高等学校からの依頼を受け、愛子岳国有林205林班内において同校理数科1年生の生徒43人が植生調査を体験しました。

同校は自然に関する理解を深め、地域の自然の価値や抱えている問題点などに関する考察を通じて、地域に貢献し、国際社会でも活躍できる高い志を備えた科学系人材の育成を目指すことを目的とし、今回、貴重な生態系を有する屋久島を2泊3日の日程で訪れたものです。

生徒らは4班に分かれ、事前に設けてあったプロット内の樹木の樹高や直径、生えている位置や樹木の樹幹投影などを計測しました。初めて体験する作業でしたが、生徒らは各班とも力を合わせ一生懸命に作業に取り組んでいました。

その後一行は、安房にある「えびす集会所」に場所を移し、前田三文所長が、今回毎木調査したデータをどのように活用するかなどについてプロジェクタを使って説明。生徒らは熱心に耳を傾けていました。最後に生徒代表から「今日はありがとうございました。大変な仕事だなぁ！しかし、大切な仕事だと思いました。この体験を今後の学習に生かしていきたい」とお礼のことばをいただき、充実した体験学習となりました。

前田所長の話に耳を傾ける舞鶴高校生

昨年の主な取組

○「紀元杉の枝」公開

1月8日、屋久杉自然館で、「紀元杉の枝引き渡しセレモニー」を実施。米田署長は「森林の成り立ちに関心を持ち、貴重な自然の大切さを学んでほしい」とあいさつ。

○シャクナゲパトロール

シャクナゲの開花期は登山者が多くなることから、登山者へのマナー指導などを5月27日～6月7日の間行いました。

○屋久島高2年生が森林植生調査

7月17日、屋久島高校普通科環境コースの2年生が夏期宿泊研修の一環として愛子岳国有林で照葉樹林の植生と調査方法を学びました。

○「夏休み森林教室」を実施

世界自然遺産20周年記念イベントの一環として8月24日、森林教室を実施。植物の特徴を学ぶとともに葛をつかったかご作りに挑戦しました。

○無名ヤクスギの愛称募集

白谷雲水峡にある4つの無名ヤクスギの愛称を募集。同雲水峡を訪れた全国の方から189件の応募があり、すばらしい愛称でデビューしました。

○ヤクタネゴヨウを記念植樹

屋久島と種子島にのみ自生している希少種のヤクタネゴヨウの保護・保全を目的に記念植樹を鍋山国有林内で実施。安房小・中学校の児童・生徒らが参加しました。